

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン ～ 39 ダルマシオン ～

職藝学院

教授 渡邊 美保子

ダルマシオンはキク科の宿根草で、絶滅危惧種のシオンの園芸品種です。10月中旬にラベンダー色の花を咲かせます。先端だけではなく、側芽にも花がたくさん咲いてにぎやかになります(写真1)。2mほどになるシオンに比べると草丈が低く120～150cm程度です。倒れないので手間がかかりません。夏から秋にかけて咲くオミナエシなどを組み合わせると、秋らしい彩りになります。



写真1 ダルマシオンの花。10月中旬。乾燥に強く、日当たりを好む。葉は秋に淡黄色に変わる。

4月になると、ダルマシオンの新芽はまるで小松菜のような姿で地面をおおいつくします。葉の縁取りがギザギザに変わる5月中旬になると、葉はぎゅうぎゅう詰めになってきます。この状況でひと月ほどがんばります。6月初旬になって、株の真ん中からほんの少しだけ茎が立ち上がってきます。茎は2ヶ月もかけてようやく茂みから脱出するのです。だいたひのんびりしています。

晴れて茂みを抜け出した茎は、太く筋が入りたくましくなります。右、左と規則正しく互い違いに葉を開きながら、地面とぴったり90°の角度で真っ直ぐ伸びてゆきます。茎の先の葉が小さくなる9月初旬、緑色の玉のような蕾の集団が現れます(写真2)。ここから開花までには、まだ1ヶ月も先です。茎を伸ばしながら、そして側芽の蕾もふくらませながら、養分をじっくり茎の先端まで送ってもらうためです。はるか地面を見下ろすと、相変わらず密に茂った葉

の集団が応援してくれているようにも見えます。

10月になり、めでたくひとつ目の花が開花すると、2週間ほどかけてゆっくりと花を順番に咲かせ(写真3)、さらに2週間ほどかけて終わりへ向かいます。11月中旬になると、茎と葉は黄土色に変わってたびれてゆきます。でも、これで終わりではありません。ダルマシオンには2回目の見ごろがあるので、咲き終わってから2週間かけて種ができて綿毛の「花」を咲かせます(写真4)。そして、11月下旬には風に吹かれて飛んでゆきます。12月中旬になると、お行儀よく規則正しく並んでいた茎は焦げた棒のような姿になります。ここで切るのをがまんすれば、年末には枯れ茎に積もる綿帽子のような雪の「花」を楽しむこともできます。



写真2 9月下旬。蕾の先端が淡紫色に染まるところが始まる。



写真3 10月初旬。花の外側は淡紫色の舌状花。内側は黄色の筒状花。



写真4 11月下旬。もうじき種が飛ぶ綿毛の中にあるのは枯れた舌状花と筒状花。